

『大般涅槃経』漢訳とその重訳チベット語訳の成立と展開

佐藤 直実

資料1 大乘『大般涅槃経』資料

- (1) インド原典…断片、前半 1/3
- (2) 漢訳・法顕訳…全 6 巻、インド原典からの翻訳、前半 1/3
- (3) 漢訳・曇無讖訳…全 40 巻、インド原典からの翻訳【北本】**  
※『大正新脩大蔵経』12 巻 474a~485b (No.374)
- (4) 漢訳・慧嚴、慧観、謝礼運編纂…全 36 巻、法顕訳と曇無讖訳をもとに編纂【南本】
- (5) 翻訳チベット語訳・Jinamitra, Jñānagarba, Devacandra 訳…インド原典からの翻訳、前半 1/3
- (6) 重訳チベット語訳・Wang phab zhun, Dge ba'i blo gros, Rgya mtsho'i sde 訳…曇無讖訳からの重訳**

※北京版 No.787、テルゲ版 No.937 (『中華蔵』52-53 巻 No.132)

→本発表で用いるのは (3) と (6)

資料2 荒川真菜氏の修士論文

「『大般涅槃経』における阿闍世王—蔵漢訳【梵行品】を中心に」2009 年

① 内容研究 (涅槃経に記される阿闍世王の特徴)

- 1) 五逆罪を犯したという点ではなく、仏教徒になった王という点 (仏教教義に通暁している点) が強調されている
- 2) 阿闍世王の救われていく過程が段階的に詳細に述べられる  
釈尊の神通力により、身体の苦しみから解放→  
釈尊に直接まみえることで、心の苦しみから解放→仏教徒になる→  
自分は幸せにならなくてもよいから、苦しむ人々を救っていきたく願う

② 資料研究

- 1) 重訳チベット語訳が曇無讖訳からの翻訳である信憑性の検証…信憑性が高い
- 2) 曇無讖訳のその後の改変の有無についての検討…後に付加・改変された可能性が高い

→本発表では、資料研究を取り上げる

### 資料3 提婆達多形容句（曇無讖訳を忠実に翻訳）

[曇] 如来有弟提婆達多 (T.479b24-25)

[重] de bzhin gshegs pa la gcung lha sbyin zhes bya ba yod de / (P329b3)

### 資料4 大臣の名前（曇無讖訳と異なる翻訳）

[曇] 時有大臣名日月稱。(T.474b7-8)

[重] de'i tshe na blon po chen po nyi zla grags pa zhes bya ba zhig  
(P314b8-315a1)

- ・ 月称 (zla grags) … 『翻訳名義大集』 No. 3499
- ・ 日月称 (nyi zla grags pa) … 『翻訳名義大集』 に記載なし

### 資料5 重訳チベット語訳の欠落箇所（曇無讖訳のその後の改変の有無について）

A 阿闍世王は、釈尊のもとへ馳せ参じるようにという亡き父の声を聞くが、姿の見えない声に怯え、赴くことができなかった。

B それを知った釈尊は、阿闍世王の到着まで入滅を延ばすことを弟子たちに告げる。

[曇] 我今當爲是王住世至無量劫不入涅槃。(T.480c1-2)

※ただし、曇無讖訳の敦煌写本 No.1833 ではこの箇所が欠落している

C 釈尊は月愛三昧に入り、光明を放って阿闍世王の体の瘡を癒した。痛みのなくなった阿闍世王は、ただちに釈尊のもとに向かった。

### 資料6 佐藤の考え

- ・ 重訳チベット語訳の翻訳者は、漢訳の内容を把握せずに、機械的に翻訳した可能性がある
- ・ 曇無讖訳には「釈尊が入滅を延期する」というエピソードを含む伝承と含まない伝承の2種類があった
- ・ 重訳チベット語訳は、「釈尊が入滅を延期する」というエピソードを含まない伝承をもとに翻訳されている